

研究課題名「主膵管狭窄症例における微小膵癌に特徴的な MRI 所見抽出のための多施設後ろ向き研究」に関する情報公開

1．研究の対象

2010 年 1 月 1 日から 2023 年 8 月 30 日までに名古屋大学医学部附属病院または 5. 研究組織に記載の機関で膵臓の病気が疑われ、腹部 MRI 検査が行われ、その検査において主膵管狭窄を認めた患者様です。

2．研究目的・方法・研究期間

研究目的：膵癌は進行が早く治療が困難な病気であり、早期発見が非常に重要です。多くの患者さんは、発見時にはすでに膵癌が進行しており、手術を行うことが難しい状況になっています。特に、腫瘍径が 10mm 以下の小さな膵癌（「微小膵癌」と呼ばれます）の早期診断は、膵癌の治療成果を向上させる鍵となります。

しかし、微小膵癌はサイズが小さいため、通常の CT 検査では見つけにくいのが現状です。そのため、微小膵癌を見つけるためには、主膵管が狭くなるなどの間接的な変化に注目する必要があります。腹部 MRI 検査、特に MRCP という技術を使うことで、これらの変化をより明確に捉えることができます。この技術は、膵液や胆汁が流れる管の異常を高いコントラストで映し出すことができるため、微小膵癌の診断に有効です。

ただし、膵癌だけでなく、慢性膵炎や自己免疫性膵炎などの良性の病気でも、主膵管の狭窄などの変化が見られることがあります。そのため、膵癌と良性疾患を正確に区別することが、とても重要です。しかし、微小膵癌と良性膵管狭窄を比較検討した研究はまだ少なく、この分野の研究は膵癌治療の改善に大きく寄与すると考えられます。今回の研究では、MRI を使って微小膵癌と良性疾患を区別する方法を探り、膵癌の早期診断と治療の進歩に貢献することを目指しています。

研究方法：電子カルテより患者さんの CT 画像、MRI 画像、内視鏡検査画像や臨床情報を調査します。

研究期間：実施承認日 ～ （西暦）2025 年 6 月 30 日

3．研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、既往歴、生活歴、臨床症状、画像検査所見

試料：本研究は後ろ向き研究であり新たに採取する検体や試料はありません。

4．外部への試料・情報の提供

臨床情報および画像データは完全非識別化し、個人が特定できないような状態でパスワードロックのかかる媒体に保存します。対照表は、各機関の責任者が保管・管理をします。研究代表機関である名古屋大学医学部附属病院で解析を行います。

5．研究組織

本研究の研究組織は以下の通りです。

名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学・教授・川嶋啓揮

名古屋大学大学院医学系研究科消化器内科学・講師・石川卓哉

名古屋大学医学部附属病院消化器内科・助教・山雄健太郎

名古屋大学大学院医学系研究科新規低侵襲画像診断法基盤開発研究寄附講座・寄附講座教授・竹原康雄

名古屋大学医学部附属病院放射線部・病院講師・小川浩

都立駒込病院消化器内科・医長・仲程純

天理よろづ相談所病院消化器内科・医長・南竜城

大分三愛メディカルセンター消化器内科・部長・佐上亮太

6．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL/FAX：052-744-2602/052-744-2602

名古屋大学医学部附属病院消化器内科・助教・山雄健太郎

研究責任者・代表者：

名古屋大学医学部附属病院消化器内科・助教・山雄健太郎